

横路福祉社会会報

〒七三七〇一三三
呉市広横路四丁目一四六
横路福祉社会
編集発行人
神垣 伸司
(0823)7118197



「古希を迎えて」

社会福祉法人 横路福祉社会
理事長 神垣 伸司

戦後間もない昭和24年、地域の方々立ち上がり勇気をもって開設したPTA立のこの横路保育所は爾来70年の歳月を迎えました。人間の慶事でいえば古希を迎えたところでもあります。これまで、社会情勢や制度変更等さまざまなことがありながら、今日まで定員を上回る入所ニーズを頂き継続できましたのも、地域の皆様方の温かい下支えがあったること、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

昨年は、7月の大雨災害で、当園も床下浸水、断水という試練を迎えましたが、職員をはじめ保護者や地域の皆様のご協力やご支援により、いち早く再開でき、子どもや保護者に貢献できたことは喜びに堪えません。本当にありがとうございました。

さて、平成から令和と新たな元号に代わる歴史的な節目を迎えた今年の10月、保育界は、今後の保育・幼児教育の在り方に大きく影響するであろう保育料の無償化を迎えます。

これまでも、子ども園制度の導入、営利企業の保育への参入、利用者の利便性の確保等、子育て世代の満足度を上げ政策効果を高めようとする子育て支援法施行後の間断のない施策、増して短期的な供給量の拡大策等は、都会とは異なる地方の保育を提供する当園にとっても、どのような影響があるのか計り知れないものがあります。国と地方、施策と現場に保育の量や保育の質の分野において微妙なズレを感じているのも私だけであろうか。

こうした実態に即しない「追い風」で失速することのないよう留意しつつ、子どもの視点に寄り添いながら、基本に忠実な保育を丁寧に実践していきます。



平成30年度 事業報告書

1. 保育児童数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
0才児	6	6	6	6	6	8	9	9	9	9	9	9	92
1・2才児	43	43	42	41	41	41	40	40	40	39	39	39	488
3才児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
4才以上児	60	60	60	60	60	60	59	59	59	59	59	59	714
計	139	139	138	137	137	139	138	138	138	137	137	137	1,654
開所日数	24	24	26	22	26	23	26	24	23	23	23	25	289

2. 一時保育利用者数(延べ人数)の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
3才未満児	133	166	189	127	180	165	199	169	137	136	150	156	1,907
3才以上児	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
計	145	166	189	127	180	165	199	169	137	136	150	156	1,919

3. 延長保育利用者数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
(標)利用者	148	188	190	131	148	158	174	196	189	133	166	212	2,033
(短)利用者	14	11	31	5	7	14	8	7	11	4	10	8	130



平成30年度 社会福祉法人 横路福祉社会

単位:円

貸借対照表

平成31年3月31日

科目	金額	科目	金額
流動資産	34,384,919	流動負債	6,202,481
固定資産	151,661,912	固定負債	7,393,000
		基本金	9,325,625
		国庫補助金等特別積立金	33,208,539
		その他の積立金	87,950,000
		次期繰越活動収支差額	41,967,186
計	186,046,831	計	186,046,831

自 平成30年4月1日

収支決算書

至 平成31年3月31日

科目	金額	科目	金額
人件費支出	100,035,867	保育所運営費収入	137,582,841
事業費支出	16,268,803	受取利息配当金収入	95,313
事務費支出	12,963,160	その他の収入	279,820
固定資産取得支出	405,000	積立資産取崩収入	101,400
積立預金積立支出	5,633,600		
当期資金収支差額	2,752,944		
計	138,059,374	計	138,059,374



2019年度 第1回役員会・評議員会

去る5月24日役員会、6月13日評議員会を開催し、平成30年度の事業内容と事業決算について審議の上承認されました。

詳細(事業内容・財務諸表)はホームページ上で公開していますのでご覧ください。

平成30年度事業報告書

1・事業の概要

(1) 大雨による浸水被害を受けたが、迅速な復旧に努め保育を早期再開した。乳幼児期の保育は、子どもの健全な心身の発達や人間形成の基礎を培う重要なものとして、日々の保育生活の中で「生きる力」の習得に努めた。

まず、体力向上のための毎日の体操や自然探索しながらの散歩やマラソン、また、忍耐力や思いやる心を醸成するための異年齢児との合同ゲーム、給食や掃除のお手伝い当番を実施した。年長児は、学研の月刊誌を購入し、毎朝、本に向き合う時間を設けることで、集中力を養うとともに、自主的に数字や字に対して興味を持ちチャレンジすることができた。

絵本会は、クラス別では毎日、全体では月2回計画的に実施し、併せて、保育士の推薦する絵本だよりを保護者向けに定期発行し本の貸し出しを行う等、本と触れ合う機会を増やした。また、月1回、国際大学生ボランティアの食育に関する絵本会を開催する等、学生との交流を通じた創造性の芽生えと集中力の養成につなげた。

(2) 情報公開については、積極的な情報公開を行い、公明正大な保育所運営に努めた。また、閲覧図書コーナーでは、義務付けられている公開文章をはじめ、個人情報には留意しながら保育所の自己評価や苦情内容等も公開した。

(2) 健やかな発育・発達のための食生活支援として、管理栄養士による園独自のメニューを組み、出汁は全てイリコや昆布を使った自然素材調理を実施している。増加傾向にある食物アレルギー疾患児童に対しては、医師や保護者と管理栄養士・調理員・保育士が連携してこどもの状況を的確に把握するとともに、写真付き除去確認票で確認する等、事故防止対策に努めた。

保護者に対しても、各行事の中で食育の大切さについての研修をする等、望ましい食生活のあり方に力を入れてきた。



「感謝の気持ち」

保育士 松本 久美子

私が保育の勉強をしていた学生時代、お世話になった先生から「子どもに慕われ、保護者から信頼される保育士になれるように笑顔で頑張りなさい」と言って頂いたことがあります。その言葉を胸に刻み、笑顔で頑張りとういう気持ちを抱いて横路保育所で働き始めました。そして、永年勤続表彰を頂くことができ、長年続けてこられた感謝の気持ちとともに、新たに頑張っていかなければという気持ちを強くしています。

思い起こせば毎日わからないことばかりで無我夢中で過ごしていた新人の頃。少し周囲が見えてきて自分の保育に自信を無くしてしまっていた頃。慣れない子育ての忙しさと仕事の両立の難しさに悩んでいた頃など、色々ありました。やはり自分の気持ちに余裕がないと笑顔を忘れてしまったり、イライラしてしまうことも多く、反省することもありました。

しかし、こうして保育士の仕事を続けてこられたのは、私が悩んでいると優しくアドバイスをしてくれる頼れる先輩たちと、いつも元気のパワーをくれる頼もしい後輩たちのおかげで、感謝の気持ちでいっぱいです。また、何より家族の支えが一番大きく「母さん頑張る」といつも応援してくれます。出産、子育ての経験を通して、保護者の皆さんの子どもに対する気持ちもわかり、保育士としての重要性を感じるようになりました。

これからも多様化する保育所の中で、自分に出来ることは何なのかと自問自答しながら周りの人たちの感謝の気持ちを忘れず、笑顔で頑張っていきたいと思います。



創立70周年 記念の会

「お母さん方の片腕に」

事務 上妻 理恵子

私は事務のお仕事で、ちょうど二年程前にこの保育所に就職しました。これまでも、他の園で事務仕事をしていましたが、ここに来て思うことは、子どもたちのなんと元気なこと！なんと素直なこと！自立していること！朝から大きな声で歌いながら体操する可愛い姿に毎日癒され、家庭での疲れも吹き飛び、活力をもらっています。

私には、十九歳を筆頭に三人の娘が居ますが、三人三様、同じ環境下で育ててもびっくりするほど性格が違います。自分と気の合う子もいれば、喧嘩ばかりする子もいて、母親として経験を重ねても、子育ては難しいものだな、と日々考えさせられます。

上の二人の子どもがまだ幼い時、私は仕事をしていませんでしたが、主人の仕事の帰りが遅く、私と主人、両方の実家が九州なので頼ることも出来ずに、それこそワンオペ育児で精神的に余裕が無く、つい幼い子どもに怒ってしまうことも多くありました。そんな折、ふいに働くことになり、初めて近所の保育所に子どもを預けたとき、ただただ、「預かって頂けるといふこと」に、なぜか涙が出たことを覚えています。ひとに頼らず、気を張って生きていたけれど、きっと知らぬ間に心も体も疲れていたのだと思います。毎朝、子どもを笑顔で迎えてくれる保育所は、本当に心強い有難い存在でした。

お母様方の中には、フルで勤務される方も多く、忙しい中、愛情を持って子育てをされる姿には心から感銘を受けます。短時間のお仕事でも同じです。人それぞれ様々な状況で大変な中、皆さん愛情を持って子育てをされています。保育所は、そんな忙しい保護者の方の片腕になって、子どもの育成環境を支えてあげられたら、それは本当に素晴らしいことだな、と思います。私は事務の仕事を通して、私なりに保護者の皆様を明るく笑顔で支えていきたいと思っています。それが、これまでに私が周りの方々から頂いた優しさへの恩返しだと、心から思っています。

